

カタチ  
**夢を技術に――**

産業研究は智徳の練磨であり、もって社会に貢献すべきである。

電力中央研究所創設者 松永安左工門(1875～1971)

電力の鬼と称された松永安左工門は、「豊富な電力を安定して供給できてこそ、あらゆる産業が繁栄していく」というゆるぎない考えのもと、日本の電気事業を形作り、次代の社会を見据えた先進的な研究機関として、電中研を創設しました。

創設から半世紀、電中研は松永の精神を継承し、電気事業に関わる幅広い研究を通じて、世の中の諸課題解消に貢献してきました。

21世紀の電中研は、これまでの研究に加えて「地球環境とエネルギーセキュリティの両立」という、私たちが克服しなければならない最重要課題の解決に向けて、挑戦を続けています。

シリーズ『夢を技術に CRIEPI SPIRIT 2007-08』では、電気事業に関わる基盤研究とともに、先進的な研究に日夜挑むシニアリサーチャーにフォーカスし、電中研の今をご紹介します。



**CRIEPI SPIRIT**